フユユスリカ

もともと右目に白内症と緑内症をかかえていますので、さらにその上「飛蚊症」も重なったかとがっくりきました。足元に注意しながらの雪上歩行なのですが、本物の蚊のような昆虫がふわふわと飛んでいるのでした。その辺り一体にうようよしています。帰宅して調べたところユスリカの一種フユユスリカでした。ユスリカ達は種類数の多い水性昆虫で分布は全世界の淡水があるところならどこにでもいるという按配です。蚊柱をつくるのはこいつらで、吸血昆虫の蚊ではありません。澄川の沢で育っているのでしょう。水質浄化の一翼を担ってくれているのです。おろそかにはできないのです。天敵のいない冬に成虫になって交尾し、さっさと産卵して 2～3 日で死んでしまうようですから、はかない命のように思えますが、幼虫時代は沢の中で糸ミミズの状態で少なくとも一年くらいの寿命はあるようです。水の中でもいろんな昆虫や魚の餌になってくれているけなげな生き物なのです。

2012 年 3 月 21 日の澄川の森は春分の日の翌日でいよいよ春が来ると思わせる日和でした。朝の気温はまだ氷点下で雪は硬くツボ足でも歩ける状態でしたが、午後、気温がプラスになるととたんに雪が弛んでザラメ状となりずぶずぶにめり込みます。そんな中での主な作業は集材でした。この冬に伐採した樹幹で活用出来るものを作業道まで人力で雪の上を滑らせて運ぶのです。高齢者たちですから重労働ですが、足腰は鍛えられます。

作業を終えて駐車場までの道のりで新しいクマゲラの食痕がみえました。カラマツの幹に大きな穴を 3 ヶ所も空けていました。クマゲラは数年前に見かけましたが、この冬にも出没してくれているようです。この日の朝、作業前の焚き火を囲んでの談笑のおりに、わずか 3 メートルばかりの近くをキタキツネがとおりかかりました。声をかけると立ち止まってふりむいてくれはしましたが、あとは無視です。さっさとパトロールに遠ざかりました。新雪の上の足跡でネズミ、リス、ウサギ、キツネと確認できます。澄川の森は我々の目指す生物多様性が存分に発揮されているとの確信をさらに深めた次第でありました。